

平成 22 年度 N P O 法人 学習開発研究所 研究助成金

“あはき教育”における初年次教育（導入教育）の  
実施に関する調査研究報告書

2011（平成 23）年 3 月

明治東洋医学院専門学校  
河井正隆 畑中仁美

## 序

初年教育(導入教育)は、現在多くの大学で取り入れられている(文部科学省,2009)。しかし、鍼灸専門学校では、これから分野であり、その導入の是非も含め、今後、熱論を繰り広げられることが予想されます。

本報告書は、(社)東洋療法学校協会加盟校を対象とした、初年次教育(導入教育)に関する全国調査の結果を雑駁ですが、まとめたものです。

今回の調査が、今後の初年次教育(導入教育)を検討するうえでの「基礎的資料」として、活用していただければ、望外の喜びあります。

末筆ながら、NPO 法人学習開発研究所の研究助成金により本調査が実施できましたこと、さらには本調査の実施にあたってご協力頂いた各学校関係者の皆様に、衷心より御礼申し上げます。

平成 23 年 3 月 31 日

明治東洋医学院専門学校  
河井正隆  
畠中仁美

(新年度を間近に控えた教員室にて)

## 目 次

1.はじめに	1
2.調査について	1
(1) 調査対象	
(2) 調査期間	
(3) 回収状況	
3.調査の結果	1
(1) 初年次教育(導入教育)の実施状況	
(2) 初年次教育(導入教育)を導入(または予定、検討中)している理由	
(3) 実施していない(予定はない)理由	
(4) 授業の形態<主要2科目まで>	
(5) 初年次教育(導入教育)の授業内容で重視される事柄	
(6) 今後どのような授業が必要と思うか	
(7) 学生は、初年次教育(導入教育)のどの部分に満足しているのか	
(8) 初年次教育(導入教育)は、どこにその効果が現れているか	
(9) 今後の改善点	
(10) 全般的に専門学校における初年次教育(導入教育)とは何か	
4.おわりに	3

### 【付録】

① 研究所への報告資料(平成23年3月27日、於:京都ノートルダム女子大学)――	4
② 調査の依頼状	13
③ 調査票	14
④ 調査の結果(単純集計)	17
⑤ 調査の結果(自由記述)	21

## 1. はじめに

近年、多様な学生の入学により、入学者のドロップアウト防止や学業を成功裏に導くプログラムへの必要性が生じ、そのプログラム、つまり初年次教育(導入教育)は現在、我が国の多くの大学で導入されている(濱名, 2008 ; 加藤, 2010 ; 山田, 2009)。これは、大学教育の場ではあるが、大学以上に多様化した学生を抱える専門学校ではなおさら、その教育プログラムは今後ますます求められるものと思われる。

研究者らは、勤務校における初年次教育(導入教育)の授業実践にここ数年関わり、その成果を(社)全日本鍼灸学会学術大会にて報告を行ってきた。

今回、授業実践というミクロな視点からさらに発展させ、鍼灸あんまマッサージ指圧教育(以下、あき教育)における初年次教育(導入教育)の実施に関する調査を、(社)東洋療法学校協会加盟校を対象に行った。そして、マクロな視点で初年次教育(導入教育)の実態を把握し、今後の初年次教育(導入教育)を検討する基礎的資料の収集が本調査の目的である。

## 2. 調査について

(1) 調査対象：(社)東洋療法学校協会加盟校45校(平成22年8月現在)を対象に、カリキュラム作成の責任者<または、初年次教育(導入教育)担当者>の教職員に調査を、郵送法にて依頼した。なお、本調査票は川島(2008)、私学高等教育研究所(2005)らの先行調査をもとに作成した。

(2) 実施期間：平成22年8月～9月に調査を実施した。

(3) 回収状況：45校中31校(68.9%)から回答があった。

## 3. 調査の結果

### (1) 初年次教育(導入教育)の実施状況

回答が得られた31校中、初年次教育(導入教育)を「実施している」学校は7校(22.6%)で、「予定している(検討中)」と回答した学校は、9校(29.0%)となっている<合計16校(51.6%)>。

逆に、「実施していない(予定はない)」学校は、15校(48.4%)となる。

### (2) 初年次教育(導入教育)を導入(または予定、検討中)している理由

先の予定(検討中)も含めた実施校16校において、実施している理由の上位3つを以下に示す。

「学習動機の向上」が11校(64.7%)、「中途退学者の防止」と「学生の学力低下の対策」とがそれぞれ9校(52.9%)、「学習技術の教授」と「学生の多様化への対応」とがそれぞれ5校(29.4%)となっている。

### (3) 実施していない(予定はない)理由

また、初年次教育(導入教育)を実施していない主な理由をまとめると、以下の通りとなる。

- ・中途退学者や学力低下者の数が極めて少なく、個別で対応することが可能なため。
- ・社会人が多く、その必要性がない。
- ・時間的、カリキュラム的制約、また人員的制約にて実施できていない。

個別対応が可能な点や、社会人学生が多く学習意欲などへの配慮にあまり必要性がないなどが、初年次教育(導入教育)の必要性を感じない理由となっている。

### (4) 授業の形態<主要2科目までを回答>

初年次教育(導入教育)の予定も含む実施校14校(無回答2校)において、主要2科目について回答を求めた。結果は以下の通りである。

・実施期間：「半期(前期)」9校(64.3%)、「通年」3校(21.4%)、「半期(後期)」2校(14.3%)の順に実施されている。

・授業形態と履修形態：「講義」8校(57.1%)、「その他」4校(28.6%)、「演習」2校(14.3%)の順で授業が行われている。また履修形態は、「必修」11校(78.6%)、「その他」3校(21.4%)、「選択」0校となる。

- ・担当教員数：「1名」7校(50%)、「複数」7校(50%)、「その他」0校とそれぞれとなる。
- ・教材：「自作教材」11校(48.6%)、「市販教材」0校、「両者」3校(21.4%)とそれぞれとなる。

### (5) 初年次教育(導入教育)の授業内容として重視される事柄

授業の内容として重視されている事柄を上位の順に挙げると、以下の通りとなる(図1)。

- ・【7校(63.6%)】適切なコミュニケーション能力、将来の職業生活や進路選択に対する動機づけ・

方向づけ。

- ・【5校(45.5%)】友人関係の拡大と充実、専門学校全般に対する動機づけ、自律した自己学習の基礎。
- ・【4校(36.4%)】チームワークを通じての協調性、ノートの取り方などの学習スキルの向上。
- ・【3校(27.3%)】社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観、学生生活における時間管理や学習習慣の確立、新しい考え方や他人の価値観を認める寛容性、レポート・論文の書き方などの文章作法。

これらから、あはき教育における初年次教育（導入教育）は多様化しているといえよう。今後、初年次教育（導入教育）のプログラムを作成する場合、学校単位のニーズをしっかりと把握する必要性が重要と思われる。

## 現在の授業内容は？

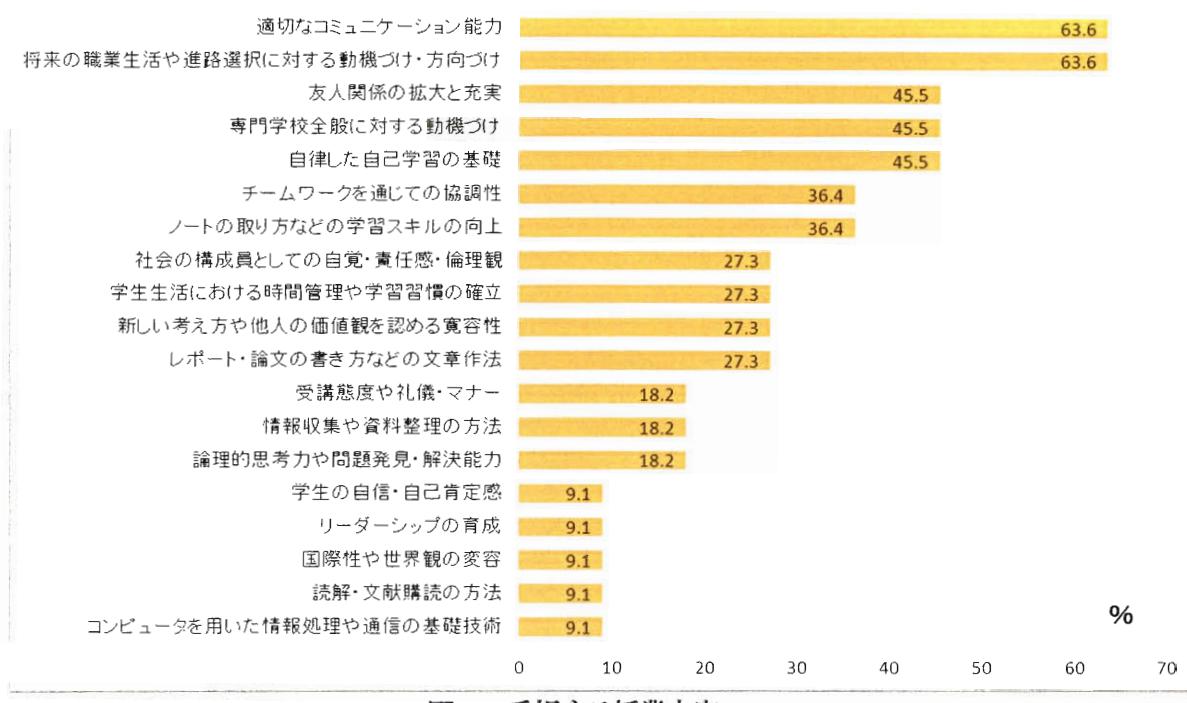


図1 重視する授業内容

### (6) 今後どのような授業が必要と思うか

現状と違い、今後、初年次教育（導入教育）を実施する場合、どのような授業を必要とするか、その回答で上位を示すものを以下に示す＜予定を含む実施校15校の「やや必要と思う」と「必要と思う」との合計学校数（%）、16校中不明1校＞。

- ・自律した自己学習の基礎：15校（100%）
- ・受講態度や礼儀・マナー：15校（100%）
- ・新しい考え方や他人の価値観を認める寛容性：14校（93.3%）
- ・学生生活における時間管理や学習習慣の確立：14校（93.3%）
- ・将来の職業生活や進路選択に対する動機づけ・方向づけ：14校（93.3%）
- ・論理的思考力や問題発見・解決能力：14校（93.3%）
- ・社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観：14校（93.3%）など。

これらから、端的に表現するならば、「自立した学習者作り」、「職業人としての力量アップ」の2つに集約できる。

### (7) 学生は、初年次教育（導入教育）のどの部分に満足しているのか

カリキュラムの作成担当者が感じる、学生が初年次教育（導入教育）のどの部分に満足しているかは、概ね以下に集約される。

- ・友達作りがしやすくなったこと
- ・コミュニケーション力を身につけていくことができるところなど。

学生が初年次教育（導入教育）において満足する要因は、コミュニケーション力（スキル）の習得といえよう。

#### （8）初年次教育（導入教育）は、どこにその効果が現れているか

カリキュラムの作成担当者が感じる、初年次教育（導入教育）の効果は、以下の通りである。

- ・学生が孤立しくくなり、周囲が声を掛け易い環境が早期に出来上がった
- ・1年次の中退者が減少した
- ・4月時点での友達の輪が早くできている
- ・クラスの中で協力し合う姿勢がみられる様になる
- ・自律できる様になってきた
- ・将来に向けて計画を立てるようになった
- ・学習方法の獲得や専門教育移行に対する姿勢など。

これらの結果から、前述した初年次教育（導入教育）の授業内容と概ね一致し、コミュニケーション力（スキル）の向上、仲間作り、職業人への動機づけを高める自律した学習者の育成などに、その効果が現れていることを窺い知ることができる。

#### （9）今後の改善点

初年次教育（導入教育）における今後の改善点については、概ね以下の通りである

- ・学生がより積極的に参加するようなプログラムを考えいかなければならない
- ・学習を自律的に行えるように、GW、チューター制、PBL等を色々に導入
- ・医療人としてのマナーを徹底したい

これらから、学生がより積極的に、自律的に学習できるようなプログラムの開発や、医療人としてのマナー教育などが、今後の改善点といえる。

#### （10）全般的に、専門学校における初年次教育（導入教育）とは何か

最後に、全般的に初年次教育（導入教育）を考えた場合、どのようなイメージなどを持っていいのかを問うた結果が以下である。

- ・自ら考え自ら学習するという意識に立つ導入教育を
- ・退学者増加の傾向に歯止めをかけるには必要
- ・入学前教育を積極的に実施する事も必要では
- ・高等学校で養った知識が必要
- ・専門性と職業意識との向上を図ることが大事
- ・時間的な余裕が必要
- ・最低限の基礎学力を測るテストなどがあれば良い
- ・学力だけでなく礼儀やマナー教育なども必要
- ・多様性に対する取り組みが今後必要性を増していく

結果からさまざまな回答が得られ、初年次教育（導入教育）の多様性をここでも窺い知ることができる。

### 4. おわりに

今回、マクロの視点から、あはき教育における初年次教育（導入教育）の実態を全国的なレベルで調査を実施した。調査結果を鳥瞰して、あはき教育においては、初年次教育（導入教育）はこれから分野であり、今後の実践研究が望まれるところである。

今回の調査は、今後、初年次教育（導入教育）を実施していく是非をも含めて、どのようなスタンスで初年次教育（導入教育）を組み立てていくのか、それらを検討する基礎的資料として意義あるものと思われる。この調査結果を踏まえ、初年次教育（導入教育）のプログラム開発とともに、具体的な授業実践の蓄積を継続的に行っていきたい。

#### （付記）

授業実践に、また授業アンケートにご協力頂いた学生の皆様、および初年次教育の本調査にご協力頂いた学校関係者および担当者の皆様に、衷心より感謝申し上げます。

## 【付録】

### ①研究所への報告資料（平成23年3月27日、於：京都ノートルダム女子大学）

#### 専門学校教育における初年次教育（導入教育）を考える！

明治東洋医学院専門学校  
○河井正隆 畑中仁美

学ぶしくみ創りcafe：京都ノートルダム女子大学

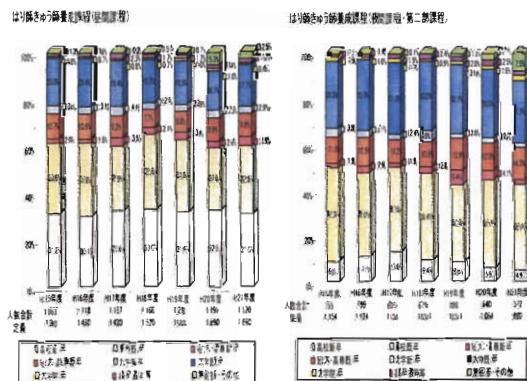
- ・大学教育では、入学者の多様化がクローズアップされ、「高・大接続」を如何にしてスムーズに行うか、今日的な課題。
- ・専門学校入学者は、高校新卒者だけではなく、社会人入学者も多く見られ、高校新卒者同様、学業に困難を覚え、途中でドロップアウトすることも稀ではない。
- ・専門学校も、「高・専接続」、「社・専接続」の議論が今日的な課題である。

学ぶしくみ創りcafe：京都ノートルダム女子大学

#### はじめに

- ・専門学校において、入学者の年齢層は大学に比べると幅広く、学歴や職種なども様々。
- ・平成21年度（社）東洋療法学校協会（『会報』第81号3.4半期報）から（図1）。
  - 昼間部：高卒者31%。
  - 夜間部：高卒者4.9%。

学ぶしくみ創りcafe：京都ノートルダム女子大学



#### 授業実践の報告

本校では、過去4年にわたり“専門教育”への橋渡しとして、“導入教育”を実施。

※(社)全日本鍼灸学会学術大会で授業実践を報告。  
第57回大会（2008年、京都）  
第58回大会（2009年、埼玉）  
第59回大会（2010年、大阪）

学ぶしくみ創りcafe：京都ノートルダム女子大学

## 【授業実践1】

専門学校における“導入教育”的  
有効性について  
—解剖学を題材として—

<第58回大会(2009年、埼玉)>

学ぶしくみ劇りcafe：京都ノートルダム女子大学

## はじめに

- ・本校における“導入教育”的成果については、検証されていない。
- ・今回、本校における現在の“導入教育”的有効性を、“専門教育”(関連授業)との連続性の中で検討する。

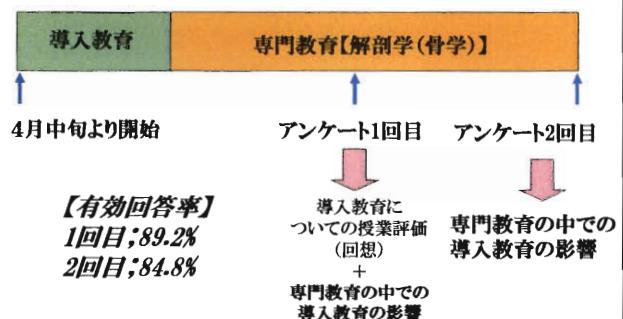
学ぶしくみ劇りcafe：京都ノートルダム女子大学

## 方法

- ・対象：“導入教育”受講生、鍼灸学科1年生。  
(平成20年度生；115名) ※科目名「からだのしくみ」
- ・方法：全ての“導入教育”終了後、授業者が行う専門教育の「中間点(1回目)」と「終了後(2回目)」の2回、授業アンケートを実施。
- ・アンケートのポイント：“導入教育”終了後、学生の意識変化を調査。

学ぶしくみ劇りcafe：京都ノートルダム女子大学

## 授業アンケートの実施



学ぶしくみ劇りcafe：京都ノートルダム女子大学

## 授業アンケート

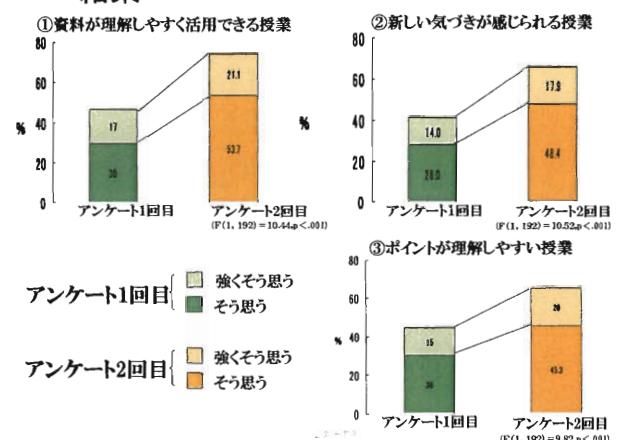
「専門教育(解剖学)」の中での“導入教育”的影響(21設問)。

### ＜設問例＞

- 配布資料の活用度  
→資料が理解しやすく活用できる授業になった。
- 学習目的の明確度  
→解剖学を学ぶ目的・内容が明確になった。
- 授業の理解度  
→授業のポイントがわかった。 etc.

学ぶしくみ劇りcafe：京都ノートルダム女子大学

## 結果 【アンケート1回目と2回目の比較】



## まとめ

多くの学生が“導入教育”的有効性を認める。

### 【自由記述(例)】

- 他の専門教育との関連性を知り、解剖学の重要性を感じた。
- 解剖学の専門用語に対して、馴染み易かった。
- 専門教育に対する、よい移行期間になった。
- 年齢にあった授業内容であった。 etc.

学ぶしくみ創りcafe：京都ノートルダム女子大学

## 【授業実践2】

### 導入教育における授業アンケート からみた学生の意識変化

＜第59回大会(2010年、大阪)＞

学ぶしくみ創りcafe：京都ノートルダム女子大学

## 目的

- ・第58回大会(埼玉大会)  
→“導入教育”から“専門教育”へ移行する際、学生にとって“導入教育”がどの程度の有効性を持つのか検討。
- ・第59回大会(大阪大会)  
→“導入教育”後の学生の意識変容を追うことで、“導入教育”的意義をさらに検討。

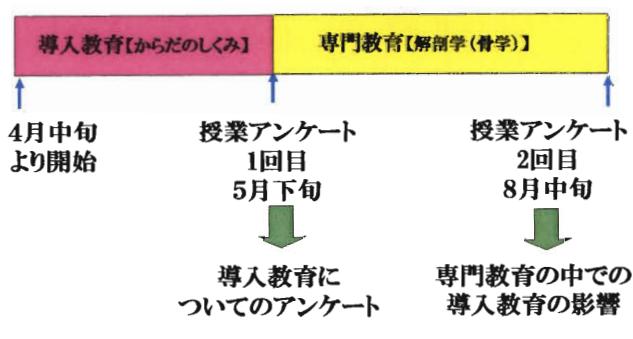
学ぶしくみ創りcafe：京都ノートルダム女子大学

## 方法

- ・対象：鍼灸学科1年生97名。
- ・科目名：「からだのしくみ」。
- ・授業期間：平成21年4月中旬～5月下旬(15時間、1単位)。→授業者が担当した「骨学総論」(6時間)。
- ・実施方法：授業アンケートを2回実施。  
→1回目、授業者が担当した全ての“導入教育”終了後(5月下旬)に実施。  
→2回目、“導入教育”に続く、“専門教育”終了後(8月中旬)に実施。

学ぶしくみ創りcafe：京都ノートルダム女子大学

## アンケートの実施



学ぶしくみ創りcafe：京都ノートルダム女子大学

## アンケート項目

- ・自由記述で構成。
- ・“導入教育”から得られた、
  - ①「新しい気付き(発見)は何か」
  - ②「“導入教育”を受けての感想」
  - ③「“導入教育”が“専門教育”にどのように活かされたか」

学ぶしくみ創りcafe：京都ノートルダム女子大学

## 結果①

### <新しい気付き(発見)について>

#### 1回目

- ただ単に覚えるのではなく、理解することが大事だと気付かされた(20代).
- 高校では習わなかった細かいところまで、知ることができた(10代).

#### 2回目

- からだのしくみで得た知識が土台となり、骨学という新しい知識が積み重なった(20代).
- 授業でどのような点に気をつければよいかなど、授業内容がとつさやすくなった(30代).
- 1つの部位を1つずつ覚えるのではなく、関連付けて覚えると覚えやすかった(30代).

学ぶしくみ劇りcafe：京都ノートルダム女子大学

## 結果②

### <“導入教育”を受けての感想>

- 22年も勉強することから離れている者にとって、導入教育はよい準備段階になった(30代).
- 他の教科と密接に関わっていることを感じた(20代).
- 最初から教科書通りの授業ではなく、独自のプリントや模型を使うことで、抵抗なく授業に入り込めた(10代).
- 導入教育がなく、いきなり専門教育を受けていたら必ず混乱していたと思う(10代).

学ぶしくみ劇りcafe：京都ノートルダム女子大学

## 結果③

### <“導入教育”が“専門教育”にどのように活かされたか>

- 専門教育の前に導入教育というクッショングがあるので、かなり混乱を避けられた(10代).
- 基本的なことから学んだので、専門教育に入りやすかった(30代).
- 導入教育により、スムーズに骨学に移行できた(50代).
- 自宅での勉強方法がわかった(30代).

学ぶしくみ劇りcafe：京都ノートルダム女子大学

## 【授業実践1・2】から

- ・“導入教育”的有効性を“専門教育”との連続性で検討し、その有効性が示唆された.
- ・“導入教育”により、専門学校で必要な学習技術の獲得や“専門教育”的重要性がより理解される.
- ・“導入教育”は「高・専接続」だけでなく、社会人入学者においても(「社・専接続」)、より能動的な学習者へ導き、“専門教育”への円滑な移行を図るための一助として有効と思われる.

学ぶしくみ劇りcafe：京都ノートルダム女子大学

## 専門学校教育における初年次教育 (導入教育)の実施に関する 調査報告

※2010年度「NPO法人 学習開発研究所」  
研究助成金の交付により実施.

学ぶしくみ劇りcafe：京都ノートルダム女子大学

## 調査の目的

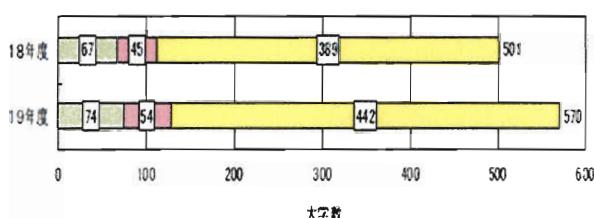
- ・専門学校教育(鍼灸師養成校)に特化した、“初年次教育”(導入教育)の実態を捉える.
- ・今後の“初年次教育”(導入教育)を検討.

学ぶしくみ劇りcafe：京都ノートルダム女子大学

## 570大学(約79%)が “初年次教育”を実施

初年次教育を導入している大学

□国立 □公立 □私立



文部科学省 2009「大学における教育内容等の改革状況について」

学ぶしくみ割りcafe・京都ノートルダム女子大学

25

## 調査方法・回収状況

- 回答者：カリキュラム作成の責任者くまたは、初年次教育（導入教育）担当者＞の教職員。

※(社)東洋療法学校協会加盟校45校を対象(平成22年現在)。

- 方 法：郵送法にて実施。

- 実施期間：平成22年8月～9月。

- 回収状況：45校中31校(68.9%)回収。

学ぶしくみ割りcafe・京都ノートルダム女子大学

## 設問項目

- 設問1 初年次教育(導入教育)の実施状況。  
 設問2 実施していない(予定はない)理由。  
 設問3 初年次教育(導入教育)を導入(または予定、検討中)している理由。  
 設問4 授業の形態＜主要2科目まで＞。  
 設問5 授業内容。  
 設問6 今後どのような授業が必要と思うか。  
 設問7 学生は、どの部分に満足しているのか。  
 設問8 どこに効果が現れているか。  
 設問9 今後の改善点は。  
 設問10 専門学校における初年次教育(導入教育)とは。

## 初年次教育(導入教育)の実施状況

実施率：22.6%(7校)。

→予定(検討中)：29.0%(9校)。

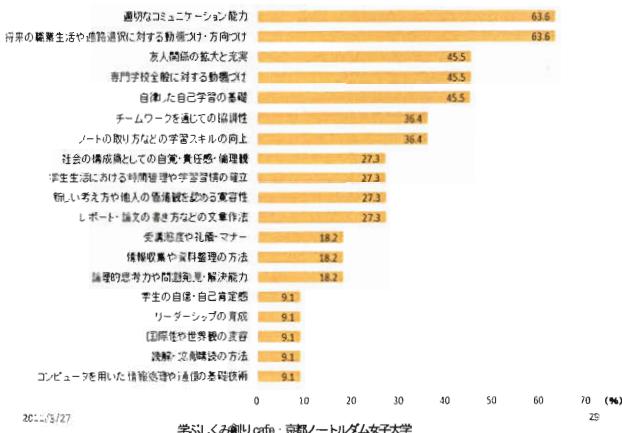
【導入の理由】 ※51.6%(16校)。

→「学習動機の向上」：64.7%(11校)。

→「中途退学者の防止」、「学生の学力低下の対策」：それぞれ52.9%(9校)。

→「学習技術の教授」、「学生の多様化への対応」：それぞれ29.4%(5校)。

現在の授業内容は？ (N=11)



## 重視されている内容

【63.6%(7校)】

- 適切なコミュニケーション能力。
- 将来の職業生活や進路選択に対する動機づけ・方向づけ。

【45.5%(5校)】

- 友人関係の拡大と充実。
- 専門学校全般に対する動機づけ。
- 自律した自己学習の基礎。

学ぶしくみ割りcafe・京都ノートルダム女子大学

### 【36.4%（4校）】

- ・チームワークを通じての協調性.
- ・ノートの取り方などの学習スキルの向上.

### 【27.3%（3校）】

- ・社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観.
  - ・学生生活における時間管理や学習習慣の確立.
  - ・新しい考え方や他人の価値観を認める寛容性.
- ・レポート・論文の書き方などの文章作法.

学ぶしくみ割り cafe : 京都ノートルダム女子大学

### 重視されていない内容

- ・図書館の利用・文献探索の方法.
- ・プレゼンテーションやディスカッションなど口頭発表の技法.
- ・フィールドワークや調査・実験の方法.
- ・学校への帰属意識の向上.
- ・地域社会への理解と参加.
- ・（学校への帰属意識の向上.）

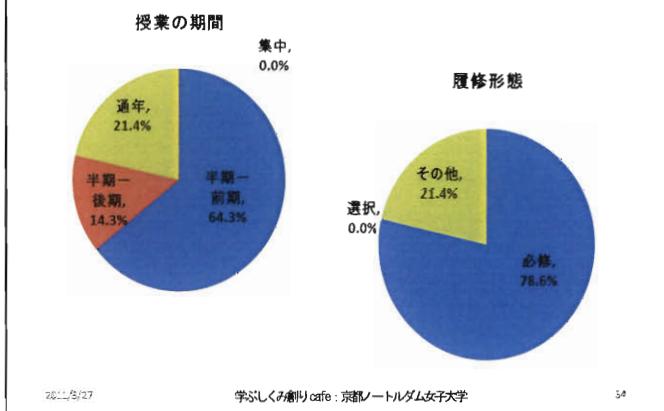
学ぶしくみ割り cafe : 京都ノートルダム女子大学

### 【参考】大学教育における初年次教育の具体的な内容（2007年度）

- ✓「レポート・論文の書き方などの文章作法」: 472 (82.8) → 専: 27.3 %.
- ✓「プレゼンやディスカッションなどの口頭発表の技法」: 418 (73.3) → 専: 重視されず.
- ✓「学問や大学教育全般に対する動機づけ」: 404 (70.9) → 専: 45.5 %.
- ✓「図書館の利用・文献検索の方法」: 389 (68.2) → 専: 重視されず.
- ✓「情報収集や資料整理の方法」: 354 (62.1) → 専: 重視されず.

※570大学中のN数(%)

### 授業の形態<主要2科目から> (N=14)

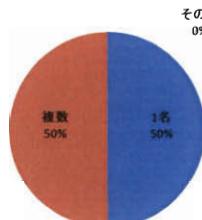


2011/3/27

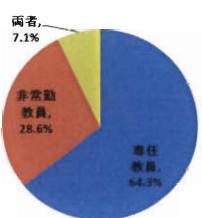
学ぶしくみ割り cafe : 京都ノートルダム女子大学

54

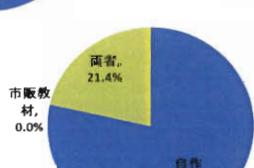
### 担当の教員数



### 担当教員



### 教材



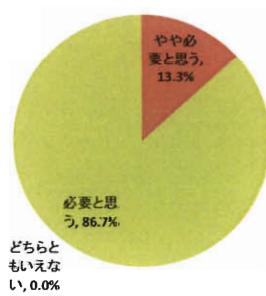
(N=14)

2011/3/27

35

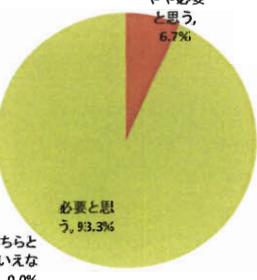
### 今後、必要と思う授業内容 (N=15)

#### 自律した自己学習の基礎

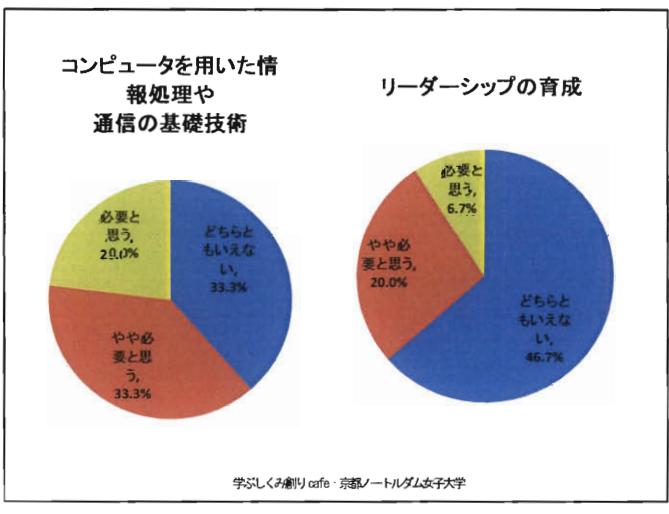
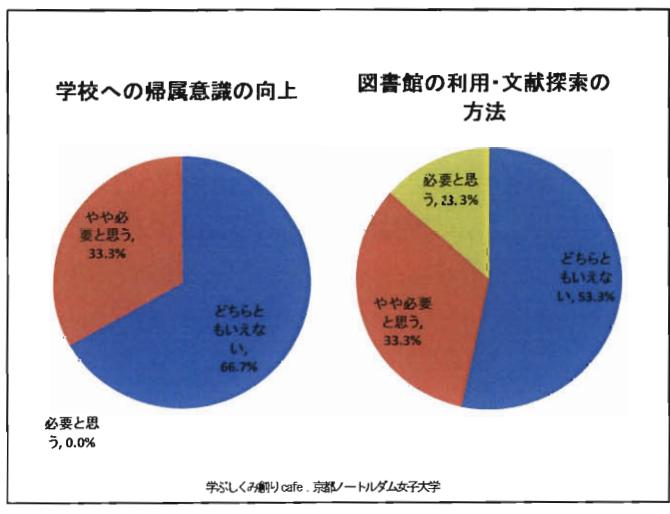
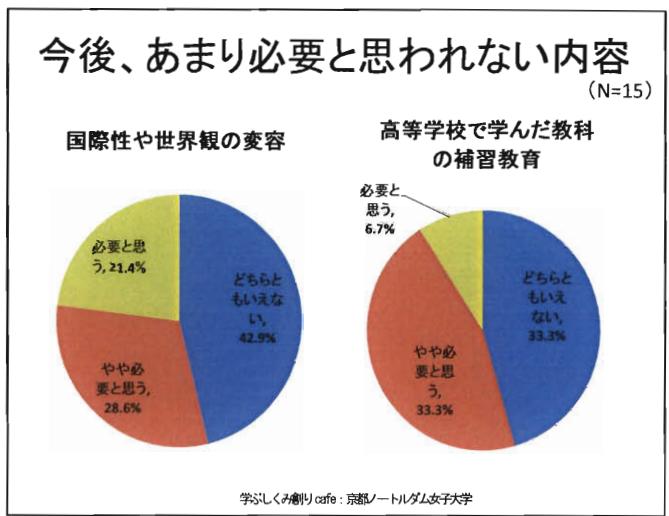
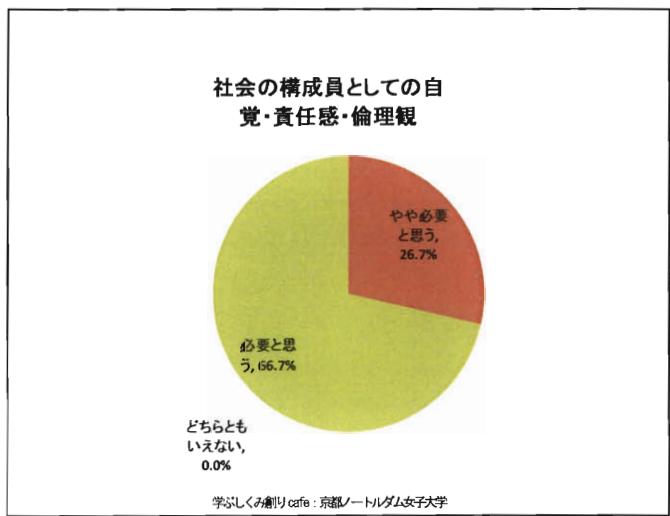
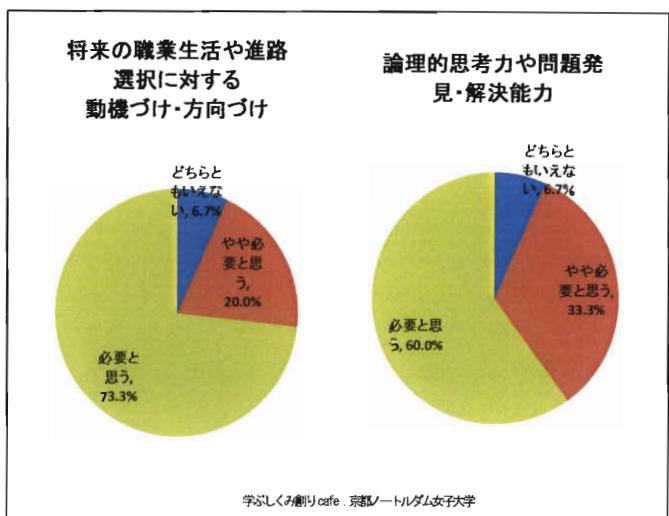
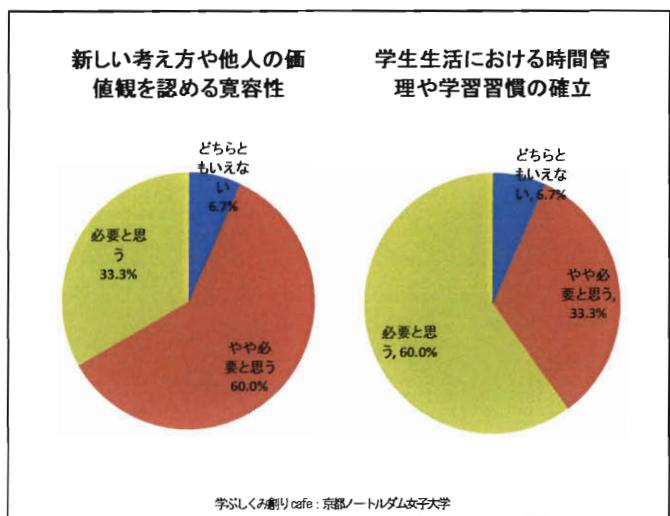


#### 受講態度や礼儀・マナー

#### 受講態度や礼儀・マナー



学ぶしくみ割り cafe : 京都ノートルダム女子大学



## 実施していない(予定はない)理由は?

- ・中途退学者、学力低下者の数が極めて少なく、個別で対応することが可能な状態にあるため。
- ・社会人が多く、その必要性がない。
- ・入学後ではなく入学前教育を検討中である。
- ・時間的、カリキュラム的制約、また人員的制約にて実施できていない。
- ・高卒者の割合が少ないので、現時点では特に科目として実施していない。
- ・新入生の過半数が大卒者である為、初年度教育は特に行っていない。
- ・成績不振者には、学科担当教員および専任教員がフォローしている。
- ・入学者が社会人であるため、高校新卒者に対する初年次教育に関する必要性がない。

2011/3/27

学ぶしくみ劇りcafe: 京都ノートルダム女子大学

43

## 学生は初年次教育(導入教育)のどの部分に満足?

- ・友達作りがしやすくなったこと。
- ・コミュニケーションの方法を、演習形式で実践しながら身につけていくことができるところ。
- ・授業を聞いたらわかるという、成功体験が嬉しいと感じている。
- ・3年間、机を共にする仲間とのコミュニケーションが取りやすくなった。
- ・自律した学習が必要であると気がついた点。
- ・段階を経て知識向上を目的としている点。

2011/3/27

学ぶしくみ劇りcafe: 京都ノートルダム女子大学

44

## 初年次教育(導入教育)の効果が現れている部分は?

- ・学生が孤立しにくくなり、周囲が声を掛け易い環境が早期に出来上がった。
- ・1年次の中退者が減少した。
- ・4月時点での友達の輪が早くできている
- ・クラスの中で協力し合う姿勢がみられる様になる。
- ・自律できる様になってきた。
- ・将来に向けて計画を立てるようになった。
- ・学習方法の獲得や専門教育移行に対する姿勢。

2011/3/27

学ぶしくみ劇りcafe: 京都ノートルダム女子大学

45

## 初年次教育(導入教育)の改善点

- ・学生がより積極的に参加するようなプログラムを考えいかなければならない。
- ・学習を自律的に行えるように、GW、チューター制、PBL等を色々導入。
- ・中学レベルの知識・能力の確認や手当。
- ・入学前のプレ講義。
- ・個人能力に合わせたクラス編成など。
- ・医療人としてのマナーを徹底したい。
- ・各教員間でのコミュニケーションを強化し、連携のとれた導入教育の内容を築いていきたい。

2011/3/27

学ぶしくみ劇りcafe: 京都ノートルダム女子大学

46

## 専門学校における初年次教育(導入教育)について

- ・自ら考え自ら学習するという意識に立つ導入教育を。
- ・退学者増加の傾向に歯止めをかけるには必要。
- ・入学前教育を積極的に実施する事も必要では。
- ・高等学校で養った知識が必要。
- ・専門性と職業意識との向上を図ることが大事。
- ・時間的な余裕が必要。
- ・最低限の基礎学力を測るテストなどがあれば良い。
- ・学力だけでなく礼儀やマナー教育なども必要。
- ・多様性に対する取り組みが今後必要性を増していく。

2011/3/27

学ぶしくみ劇りcafe: 京都ノートルダム女子大学

47

## 専門学校における“初年次教育”(導入教育)

- ◆初年次教育(導入教育)は必要!?
- 「必 要!」 VS 「必要ない!」
- ◆内容は、学校により“さまざま!”

2011/3/27

学ぶしくみ劇りcafe: 京都ノートルダム女子大学

48

## 授業内容で必要と思われる内容

- ・自律した自己学習の基礎
- ・受講態度や礼儀・マナー
- ・新しい考え方や他人の価値観を認める寛容性
- ・学生生活における時間管理や学習習慣の確立
- ・将来の職業生活や進路選択に対する動機づけ・方向づけ
- ・論理的思考力や問題発見・解決能力
- ・社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観



など

## 自立した学習者であり、職業人としての力量

2011/3/27

学ぶしくみ劇りcafe: 京都ノートルダム女子大学

49

## 今後の課題

- ・学生のニーズを如何に把握するか？
- ・教育目標をどこに置くのか？
- ・どのような教材を準備するのか？

2011/3/27

学ぶしくみ劇りcafe: 京都ノートルダム女子大学

50

## 「高・専接続」、「社・専接続」？

- 何を接続するのか、または接続の必要性があるのか？
- 教育方法？ 教育内容？
- それとも、他のもの(例えば、学習方法)？
- “移行”，“適応”，“成功”は如何に？

2011/3/27

学ぶしくみ劇りcafe: 京都ノートルダム女子大学

51

## 参考文献

- ・私学高等教育研究所 2005 「私立大学における一年次教育の実際」『私学高等教育研究叢書 4』。
- ・文部科学省 2009 『大学における教育内容等の改革状況について』(平成21年3月31日)。
- ・山田礼子 2009 「日本の初年次教育の展開」『初年次教育学会誌』第2巻、第1号、pp.3-23。

2011/3/27

学ぶしくみ劇りcafe: 京都ノートルダム女子大学

52

## 謝 辞

授業実践の分析において、授業アンケートにご協力頂いた、学生の皆様、および初年次教育の調査にご協力頂いた学校関係者および担当者の皆様に、衷心より感謝申し上げます。

2011/3/27

学ぶしくみ劇りcafe: 京都ノートルダム女子大学

53

## ②調査の依頼状

平成 22 年 8 月 2 日

理事長  
学校長  
担当者 各位

明治東洋医学院専門学校  
専任教員 河井正隆  
専任教員 畠中仁美

### 「あはき教育における初年次教育(導入教育)の実施に関する調査」について（お願い）

謹啓 酷暑の候、時下ますます御清祥の段、お慶び申し上げます。

突然ではありますが、私たちは、初年次教育（導入教育）における授業実践の研究をここ数年行い、その成果を（社）全日本鍼灸学会学術大会にて報告してまいりました。今回はさらに発展させ、標記の通り、あはき教育における初年次教育（導入教育）の実施に関する調査を、（社）東洋療法学校協会加盟校を対象に行う計画を立てた次第です。

近年、多様な学生の入学により、入学者のドロップアウト防止や学業を成功裏に導くプログラムへの必要性が生じ、そのプログラム、つまり初年次教育（導入教育）は現在、我が国の多くの大学で導入されています。これは、大学教育の場ではありますが、大学以上に多様化した学生を抱える専門学校ではなおさら、その教育プログラムは今後ますます求められるものと思われます。

そこで本調査では、あはき教育に特化した初年次教育（導入教育）の実態を捉え、今後の初年次教育（導入教育）を検討する基礎的資料として収集するものです。

御多忙のところ、この時期にお手を煩わせること誠に恐縮の至りではありますが、今後のあはき教育の充実・発展のため、本調査に御協力くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上す。

謹白

### あはき教育における初年次教育(導入教育)の実施に関する調査

近年、多様な学生の入学により、入学者のドロップアウト防止や学業を成功裏に導くプログラムへの必要性が生じ、そのプログラム、つまり初年次教育（導入教育）は現在、我が国の多くの大学で導入されています。これは、大学教育の場ではありますが、大学以上に多様化した学生を抱える専門学校ではなおさら、その教育プログラムは今後ますます求められるものと思われます。

そこで本調査では、あはき教育における初年次教育（導入教育）の現状を質問紙調査で把握し、今後の初年次教育（導入教育）を検討する基礎的資料の収集を目的に実施するものです。

なお、ここでいう初年次教育（導入教育）を以下のように定義させていただきます。

**初年次教育**：主に高等学校からの円滑な移行を図り、学習及び人格的な成長に向け専門学校での学習を成功させるべく、主に新入生を対象に総合的に作成された教育プログラム。

**導入教育**：初年次教育の中でも「導入」から「卒業」までの学習経路が明確であるという前提に基づき、専門学校における専門教育の修得に向けての第1ステップ。つまり、初年次教育の1つの型。

ご回答はすべて統計的に処理され、回答者が特定されるようなことはありません。この調査を通じて、今後ますます多様化する学生へ、一層効果的な学習指導開発等へと繋げていく所存です。

貴校におかれましては、以上の調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力いただきますよう、何とぞお願い申し上げる次第です。

なお、本調査の結果は、ご協力を頂いた専門学校へ郵送申し上げるほか、（社）全日本鍼灸学会学術大会等でも報告する予定です。

ご多忙の中、大変恐縮ではございますが、是非とも本調査にご協力いただきますよう、重ねてお願ひ申し上げます。

平成22年8月

---

**【ご依頼する回答者】**

ご回答は、カリキュラム作成の責任者<または、初年次教育（導入教育）担当者>の方にお願いできれば幸甚に存じます。ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒にてご返送ください。なお、調査票のご返送は、平成22年9月4日（土）必着でお願いいたします。

**【調査票のご返送先・お問い合わせ先】**

明治東洋医学院専門学校内 〒564-0034 吹田市西御旅町7-53, Tel: 06-6381-3811 (代表)  
河井正隆 (kawai@meiji-s.ac.jp), 畑中仁美 (hatanaka@meiji-s.ac.jp)

付記：本調査研究は、NPO 法人学習開発研究所(代表：西之園晴夫氏)の平成22年度研究助成金の交付により実施されるものです。

**③調査票**

※各設問において、該当する選択肢に〇を1つお付けください。また設問により、複数回答や自由記述を求める回答もございます。

設問1 初年次教育（導入教育）を実施されていますか？

1. 実施している（→\_\_\_\_\_年度から実施）  
2. 実施を予定している（→\_\_\_\_\_年度から実施予定）  
3. 実施を検討中である  
4. 実施していない（予定はない）
- 〔<設問3～設問10へ> <設問2のみの回答へ>〕

設問2 実施していない（予定はない）理由をお教えください。

※実施していない（予定がない）場合、ここで回答は終了となります。  
ご回答、大変ありがとうございました。

設問3 初年次教育（導入教育）を導入（または予定、検討中）している理由をお教えください？

〔複数回答可〕

1. 中途退学者の予防として                   2. 学生の学力低下の対策として  
3. 学習技術の教授のため                   4. 学習動機の向上のため  
5. 学生の多様化への対応として                   6. 学力格差を埋めるため  
7. その他（  ）

設問4 主な授業の具体的な内容をお教えください<主要2科目まで>。

**授業1**

1. 授業名：（  ）  
2. 期間：①半期（a. 前期・b. 後期）・ ②通年 ・ ③集中（    月頃）  
3. 単位数：（      ）単位

4. 授業形態：① 講義 ・ ② 演習 ・ ③ その他
5. 履修形態：① 必修 ・ ② 選択 ・ ③ その他
6. 担当の教員数：① 1名の教員で ・ ② 複数教員で ・ ③ その他（ ）
7. 担当教員：① 専任教員 ・ ② 非常勤教員 ・ ③ 両者
8. 教材：① 自作教材 ・ ② 市販教材 ・ ③ 両者

**授業2**

1. 授業名：（ ）
2. 期間：① 半期 (a. 前期・b. 後期) ・ ② 通年 ・ ③ 集中（ 月頃）
3. 単位数：（ ）単位
4. 授業形態：① 講義 ・ ② 演習 ・ ③ その他
5. 履修形態：① 必修 ・ ② 選択 ・ ③ その他
6. 担当の教員数：① 1名の教員で ・ ② 複数教員で ・ ③ その他（ ）
7. 担当教員：① 専任教員 ・ ② 非常勤教員 ・ ③ 両者
8. 教材：① 自作教材 ・ ② 市販教材 ・ ③ 両者

**設問5 現在の授業内容は、どのようなものですか？<複数回答可>**

1. レポート・論文の書き方などの文章作法
2. 図書館の利用・文献探索の方法
3. コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術
4. プレゼンテーションやディスカッションなど口頭発表の技法
5. 読解・文献購読の方法
6. フィールドワークや調査・実験の方法
7. 論理的思考力や問題発見・解決能力
8. 新しい考え方や他人の価値観を認める寛容性
9. 国際性や世界観の変容
10. 高等学校で学んだ教科の補習教育
11. 自律した自己学習の基礎
12. 学生生活における時間管理や学習習慣の確立
13. 将来の職業生活や進路選択に対する動機づけ・方向づけ
14. 情報収集や資料整理の方法
15. ノートの取り方などの学習スキルの向上
16. 専門学校全般に対する動機づけ
17. 受講態度や礼儀・マナー
18. 学校への帰属意識の向上
19. 友人関係の拡大と充実
20. 適切なコミュニケーション能力
21. チームワークを通じての協調性
22. リーダーシップの育成
23. 社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観
24. 地域社会への理解と参加
25. 学生の自信・自己肯定感

設問6 初年次教育(導入教育)の授業内容として、各項目、今後どの程度必要と思われますか。

	必要と思う	やや必要と思う	どちらともいえない	あまり必要と思わない	必要と思わない
1. レポート・論文の書き方などの文章作法	5	4	3	2	1
2. 図書館の利用・文献探索の方法	5	4	3	2	1
3. コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術	5	4	3	2	1
4. プレゼンテーションやディスカッションなど口頭発表の技法	5	4	3	2	1
5. 読解・文献講読の方法	5	4	3	2	1
6. フィールドワークや調査・実験の方法	5	4	3	2	1
7. 論理的思考力や問題発見・解決能力	5	4	3	2	1
8. 新しい考え方や他人の価値観を認める寛容性	5	4	3	2	1
9. 國際性や世界観の変容	5	4	3	2	1
10. 高等学校で学んだ教科の補習教育	5	4	3	2	1
11. 自律した自己学習の基礎	5	4	3	2	1
12. 学生生活における時間管理や学習習慣の確立	5	4	3	2	1
13. 将来の職業生活や進路選択に対する動機づけ・方向づけ	5	4	3	2	1
14. 情報収集や資料整理の方法	5	4	3	2	1
15. ノートの取り方などの学習スキルの向上	5	4	3	2	1
16. 専門学校全般に対する動機づけ	5	4	3	2	1
17. 受講態度や礼儀・マナー	5	4	3	2	1
18. 学校への帰属意識の向上	5	4	3	2	1
19. 友人関係の拡大と充実	5	4	3	2	1
20. 適切なコミュニケーション能力	5	4	3	2	1
21. チームワークを通じての協調性	5	4	3	2	1
22. リーダーシップの育成	5	4	3	2	1
23. 社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観	5	4	3	2	1
24. 地域社会への理解と参加	5	4	3	2	1
25. 学生の自信・自己肯定感	5	4	3	2	1

	必要と思う	やや必要と思う	どちらともいえない	あまり必要と思わない	必要と思わない

設問7 学生は、初年次教育(導入教育)のどの部分に満足していると思われますか。

設問8 初年次教育(導入教育)の効果は、どのようなところに現れていると思われますか。

設問9 初年次教育(導入教育)を今後改善される場合、どのような改善点が考えられますか。

設問10 専門学校における初年次教育(導入教育)について、ご意見などをお聞かせください。

本調査にご協力頂き、誠にありがとうございました。

#### ④調査の結果（単純集計）

1 初年次教育(導入教育)を実施しているか?		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	実施している	7	22.6
2	実施を予定している	1	3.2
3	実施を検討中である	8	25.8
4	実施していない(予定はない)	15	48.4
	サンプル数(%ベース)	31	100

2 導入(予定、検討中)の理由は?		(MA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	中途退学者の防止として	9	52.9
2	学生の学力低下の対策として	9	52.9
3	学習技術の教授のため	5	29.4
4	学習動機の向上のため	11	64.7
5	学生の多様化への対応として	5	29.4
6	学力格差を埋めるため	3	17.6
7	その他	1	5.9
	サンプル数(%ベース)	43	—

3 授業の期間1		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	半期一前期	7	70
2	半期一後期	1	10
3	通年	2	20
4	集中	0	0
	サンプル数(%ベース)	10	100

4 授業形態1		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	講義	5	50
2	演習	2	20
3	その他	3	30
	サンプル数(%ベース)	10	100

5 履修形態1		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必修	8	80
2	選択	0	0
3	その他	2	20
	サンプル数(%ベース)	10	100

6 担当の教員数1		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	1名	5	50
2	複数	5	50
3	その他	0	0
	サンプル数(%ベース)	10	100

7 担当教員1		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	専任教員	7	70
2	非常勤教員	2	20
3	両者	1	10
	サンプル数(%ベース)	10	100

8 教材1		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	自作教材	7	70
2	市販教材	0	0
3	両者	3	30
	サンプル数(%ベース)	10	100

9 授業の期間2		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	半期一前期	2	50
2	半期一後期	1	25
3	通年	1	25
4	集中	0	0
	サンプル数(%ベース)	4	100

10 授業形態2		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	講義	3	75
2	演習	0	0
3	その他	1	25
	サンプル数(%ベース)	4	100

11 履修形態2		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必修	3	75
2	選択	0	0
3	その他	1	25
	サンプル数(%ベース)	4	100

12 担当の教員数2		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	1名	2	50
2	複数	2	50
3	その他	0	0
	サンプル数(%ベース)	4	100

13 担当教員2		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	専任教員	3	75
2	非常勤教員	0	0
3	両者	1	25
	サンプル数(%ベース)	4	100

14 教材2		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	自作教材	4	100
2	市販教材	0	0
3	両者	0	0
	サンプル数(%ベース)	4	100

15 現在の授業内容は?		(MA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	レポート・論文の書き方などの文章作法	3	27.3
2	図書館の利用・文献探索の方 法	0	0
3	コンピュータを用いた情報処 理や通信の基礎技術	1	9.1
4	プレゼンテーションやディスカ ッションなど口頭発表の技法	0	0
5	読解・文献購読の方法	1	9.1
6	フィールドワークや調査・実験 の方法	0	0
7	論理的思考力や問題発見・解 決能力	2	18.2
8	新しい考え方や他人の価値観 を認める寛容性	3	27.3
9	国際性や世界観の変容	1	9.1
10	高等学校で学んだ教科の補習 教育	0	0
11	自律した自己学習の基礎	5	45.5
12	学生生活における時間管理や 学習習慣の確立	3	27.3
13	将来の職業生活や進路選択 に対する動機づけ・方向づけ	7	63.6
14	情報収集や資料整理の方法	2	18.2
15	ノートの取り方などの学習ス キルの向上	4	36.4
16	専門学校全般に対する動機づ け	5	45.5
17	受講態度や礼儀・マナー	2	18.2
18	学校への帰属意識の向上	0	0
19	友人関係の拡大と充実	5	45.5
20	適切なコミュニケーション能力	7	63.6
21	チームワークを通じての協調 性	4	36.4
22	リーダーシップの育成	1	9.1
23	社会の構成員としての自覚・ 責任感・倫理観	3	27.3

16 レポート・論文の書き方などの 文章作法		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	1	6.7
3	どちらともいえない	1	6.7
4	やや必要と思う	6	40
5	必要と思う	7	46.7
	サンプル数(%ベース)	15	100.1

24	地域社会への理解と参加	0	0
25	学生の自信・自己肯定感	1	9.1
	サンプル数(%ベース)	60	—

17	図書館の利用・文献探索の方 法	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	0	0
3	どちらともいえない	8	53.3
4	やや必要と思う	5	33.3
5	必要と思う	2	13.3
	サンプル数(%ベース)	15	99.9

18	コンピュータを用いた情報処理 や通信の基礎技術	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	2	13.3
3	どちらともいえない	5	33.3
4	やや必要と思う	5	33.3
5	必要と思う	3	20
	サンプル数(%ベース)	15	99.9

19	プレゼンテーションやディスカ ッションなど口頭発表の技法	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	0	0
3	どちらともいえない	5	33.3
4	やや必要と思う	7	46.7
5	必要と思う	3	20
	サンプル数(%ベース)	15	100

20	読解・文献購読の方法	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	1	6.7
3	どちらともいえない	5	33.3
4	やや必要と思う	6	40
5	必要と思う	3	20
	サンプル数(%ベース)	15	100

21	フィールドワークや調査・実験 の方法	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	1	6.7
3	どちらともいえない	10	66.7
4	やや必要と思う	3	20
5	必要と思う	1	6.7
	サンプル数(%ベース)	15	100.1

22	論理的思考力や問題発見・解決 能力	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	0	0
3	どちらともいえない	1	6.7
4	やや必要と思う	5	33.3
5	必要と思う	9	60
	サンプル数(%ベース)	15	100

23	新しい考え方や他人の価値観 を認める寛容性	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	0	0
3	どちらともいえない	1	6.7
4	やや必要と思う	9	60
5	必要と思う	5	33.3
	サンプル数(%ベース)	15	100

24	国際性や世界観の変容	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	1	7.1
3	どちらともいえない	6	42.9
4	やや必要と思う	4	28.6
5	必要と思う	3	21.4
	サンプル数(%ベース)	14	100

25	高等学校で学んだ教科の補 習教育	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	4	26.7
3	どちらともいえない	5	33.3
4	やや必要と思う	5	33.3
5	必要と思う	1	6.7
	サンプル数(%ベース)	15	100

26	自律した自己学習の基礎	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	0	0
3	どちらともいえない	0	0
4	やや必要と思う	2	13.3
5	必要と思う	13	86.7
	サンプル数(%ベース)	15	100

27	学生生活における時間管理や学習習慣の確立	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	0	0
3	どちらともいえない	1	6.7
4	やや必要と思う	5	33.3
5	必要と思う	9	60
	サンプル数(%ベース)	15	100

28	将来の職業生活や進路選択に対する動機づけ・方向づけ	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	0	0
3	どちらともいえない	1	6.7
4	やや必要と思う	3	20
5	必要と思う	11	73.3
	サンプル数(%ベース)	15	100

29	情報収集や資料整理の方法	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	0	0
3	どちらともいえない	2	13.3
4	やや必要と思う	7	46.7
5	必要と思う	6	40
	サンプル数(%ベース)	15	100

30	ノートの取り方などの学習スキルの向上	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	0	0
3	どちらともいえない	3	20
4	やや必要と思う	6	40
5	必要と思う	6	40
	サンプル数(%ベース)	15	100

31	専門学校全般に対する動機づけ	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	1	6.7
3	どちらともいえない	5	33.3
4	やや必要と思う	2	13.3
5	必要と思う	7	46.7
	サンプル数(%ベース)	15	100

32	受講態度や礼儀・マナー	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	0	0
3	どちらともいえない	0	0
4	やや必要と思う	1	6.7
5	必要と思う	14	93.3
	サンプル数(%ベース)	15	100

33	学校への帰属意識の向上	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	0	0
3	どちらともいえない	10	66.7
4	やや必要と思う	5	33.3
5	必要と思う	0	0
	サンプル数(%ベース)	15	100

34	友人関係の拡大と充実	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	1	6.7
3	どちらともいえない	2	13.3
4	やや必要と思う	8	53.3
5	必要と思う	4	26.7
	サンプル数(%ベース)	15	100

35	適切なコミュニケーション能力	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	1	6.7
3	どちらともいえない	1	6.7
4	やや必要と思う	0	0
5	必要と思う	13	86.7
	サンプル数(%ベース)	15	100.1

36	チームワークを通じての協調性	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	1	6.7
3	どちらともいえない	2	13.3
4	やや必要と思う	5	33.3
5	必要と思う	7	46.7
	サンプル数(%ベース)	15	100

37	リーダーシップの育成	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	4	26.7
3	どちらともいえない	7	46.7

38	社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観	(SA)	
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	1	6.7
3	どちらともいえない	0	0

4	やや必要と思う	3	20
5	必要と思う	1	6.7
	サンプル数(%ベース)	15	100.1

4	やや必要と思う	4	26.7
5	必要と思う	10	66.7
	サンプル数(%ベース)	15	100.1

39 地域社会への理解と参加 (SA)			
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	1	6.7
3	どちらともいえない	4	26.7
4	やや必要と思う	6	40
5	必要と思う	4	26.7
	サンプル数(%ベース)	15	100.1

40 学生の自信・自己肯定感 (SA)			
No.	カテゴリ	件数	%
1	必要と思わない	0	0
2	あまり必要と思わない	1	6.7
3	どちらともいえない	3	20
4	やや必要と思う	6	40
5	必要と思う	5	33.3
	サンプル数(%ベース)	15	100

## ⑤ 調査の結果（自由記述）

### 設問2 実施していない（予定はない）理由は？

- ・現在のところ中途退学者、学力低下者の数が極めて少なく、一部該当する者については、個別で対応することが可能な状態にあるためです。
- ・学校として取り組んでいない。今後も考えていないようです。
- ・社会人が多く、その必要性がない。
- ・初年次教育や導入教育相当の教育プログラムはそれが大学で導入される以前より実施している。近年の学力低下を踏まえ、入学後ではなく入学前教育を検討中である。
- ・時間的、カリキュラム的制約、また人員的制約にて実施できていません。オリエンテーションや専任の授業内で類似の内容を行っていますが、まだ初年次教育（導入教育）と呼べるものではありません。
- ・高卒者の割合が少ないので現時点では特に科目として実施しておりません。但し、必要に応じて各教員が工夫をこらしてそれぞれの科目の中で触れているものもあると思います。
- ・無意味である。
- ・入学後、最初の授業はオリエンテーションを行っていて、その中で学生の心得、学校生活などを話している。テスト時期、休みの前には授業の中で心がまえや、過ごし方を伝えている。他、出席、学業等問題となることが予測される場合は個人面談も行っている。
- ・本校では、論文、レポートの提出を前提としている。又、新入生の過半数が大卒者である為、初年次教育は特にていません。
- ・中途退学者などは、初年次教育を実施する、否の問題ではないように考える
- ・現在のところ、導入教育という形態では、実施していないが、今後検討し、決定していく。
- ・基礎分野という形で英語、生物などを導入しているが、カリキュラム以外での導入は行っていない。
- ・必要性を感じない為。
- ・1 年次の基礎科目において、成績の振るわない学生には、学科担当教員および専任教員が補習や課題などを課すことによりフォローアップしているため、新入生全体への初年次教育は実施していない。
- ・入学者が社会人であるため、高校新卒者に対する初年次教育に関する必要性がない。
- ・将来、社会人もより教育にかかわる影響があるようであれば導入教育を検討したい。

### 設問7 学生は初年次教育（導入教育）のどの部分に満足？

- ・本校では導入教育を行っているが、学生の満足は高くないと思われる。

- ・回答をしながらふと思ったのですが、まだ実施していない場合、回答に困ります。学習意欲の向上と退学者減少につながれば、と考えております。
- ・他人と係るのが不得手な者が多いので、同級生から同学年同士、そして上級生との交わりへと発展させてゆく、お手伝いをする必要がある。
- ・友達作りがしやすくなつたこと。
- ・コミュニケーションの方法を演習形式で実践しながら身につけていくことができるところ。
- ・初年次教育の必要性について十分な説明を行っていない為、満足度をはかることは不明です。
- ・授業を聞いたらわかるという成功体験が嬉しいと感じていると思われる。本人たちは恐らく意図を理解することはないと思われる。無意識でも力を付けさせることが目標だと考える。
- ・3年間、机を共にする仲間とのコミュニケーションが研修会を通して取りやすくなつた。自律した学習が必要であると気がついた点。
- ・段階を経て知識向上を目的としている点。

#### 設問8 初年次教育(導入教育)の効果が現れている部分は?

- ・まだ行って2年目なので具体的な効果が現れている状況ではないと思われる。効果を測る方法がまだ確立していない為。
- ・学生が孤立しくなり、周囲が声を掛け易い環境が早期に出来上がり、1年次の中退者が減少した。
- ・4月時点での友達の輪が早くできている。
- ・クラスの中で協力し合う姿勢がみられる様になる。
- ・現れる可能性としてはメディアリテラシーが高くなることを期待している。
- ・1年生の前期のつまづきは3年間にわたり悪影響を及ぼす。何とか国家試験まで頑張ることができるには導入教育の効果だと考えています。
- ・研修会後も言い続けることで自律できる様になってきた。将来に向けて計画を立てようになった。
- ・学習方法の獲得や専門教育移行に対する早期浸透。

#### 設問9 初年次教育(導入教育)の改善点は?

- ・より学生が積極的に参加するようなプログラムを考えていかなければならぬと思う。
- ・学習を自律的に行えるように、GW、チューター制、PBL等色々導入をしたい。
- ・導入時点で足りない学力差を導入前に行うこと。
- ・必要と思うが導入していない事を取り入れていく。
- ・中学レベルの知識・能力の確認や手当。入学前のプレ講義。個人能力に合わせたクラス編成など。
- ・医療人としてのマナーをもう少し徹底したいと思う。
- ・各教員間でのコミュニケーションを強化し、連携した導入教育の内容を築いていきたい。

#### 設問10 専門学校における初年次教育(導入教育)について

- ・自ら考え、自ら学習するという意識を学生自身に持たせる様な導入教育が必要となったと思います。
- ・退学者増加の傾向に歯止めをかけるには、こうした取組みが必要と考えています。
- ・教員の資質の向上も含めた教育の見直しが求められているのだと思います。大学に倣い、専門学校でもどんどん導入すべきと考えます。
- ・入学前教育を積極的に実施する事により、3年半の教育期間が獲得出来るのでは?
- ・近年の専門学校教育には高等学校教育で養った知識が必要で、そこを含め、教育せねばならない。よって、高度な専門知識の教育より最低限の教育をどう行うかが重要となっている。導入ではそこの穴埋め

が必要だと考えている。

- ・専門性と職業意識の向上を教えるべきものが本来の姿とは思います。
- ・我々専門学校でも教えていく時代とは思いますが、中高で今一度、コミュニケーションや自律性などの教育を考えてもらうべき提案することも課題として頂きたい。
- ・必要だと思われるが、中々カリキュラムに反映できない現状です。
- ・時間的な余裕がない。
- ・本校では初年次教育のないよう一部を卒業論文作成にあてている。ただ、学生の学習意欲を高めるためには動機の向上が重要だと思われますので、入学後すぐにでも学習動機向上の手段が必要かと考えます。そのため検討段階に入った次第です。
- ・協会で最低限の基礎学力を測るテストなどを作つて頂ければありがたい。また学力だけでなく礼儀やマナー教育なども導入では必要と思われる。人間力が必要である。
- ・正規時間外で検討中。
- ・与えられるだけの学習では世の中に出でからには通用しない。自ら進んで学ぶこと。人間関係を構築する力を養うことが必要だと考えます。
- ・多様性に対する取り組みが今後必要性を増し、互いに意見を出し合うことでその方法や内容が充実していくことを期待する。

#### 【参考文献】

- ・濱名 篤 2008 「日本の初年次教育の課題」『初年次教育学会誌』第1巻、第1号、pp.57-64.
- ・加藤 肇 2010 「高大連携の未来」『IDE 現代の高等教育』No.524、10月号、pp.4-9.
- ・川島啓二 2008 「初年次教育の諸領域とその広がり」『初年次教育学会誌』第1巻、第1号、pp.26-32.
- ・文部科学省 2009 『大学における教育内容等の改革状況について』(平成21年3月31日).
- ・私学高等教育研究所(研究代表者 山田礼子) 2005 「私立大学における一年次教育の実際」『私学高等教育研究叢書 4』.
- ・山田礼子 2009 「日本の初年次教育の展開」『初年次教育学会誌』第2巻、第1号、pp.3-23.

“あはき教育”における初年次教育（導入教育）の実施に関する調査研究 報告書

平成 22 年度 NPO 法人 学習開発研究所 研究助成金

---

2011(平成 23) 年 3 月 発行

作成・編集：河井正隆 畑中仁美  
印刷・製本：光和印刷

---

〒564-0034 吹田市西御旅町 7-53 明治東洋医学院専門学校  
TEL : 06-6381-3811 FAX : 06-6381-3800

---